

2月20日（土）海外取材体験シミュレーション（小川 周佑氏）

- 日時 平成28年2月20日（土）13:40～15:20
- 演題 海外取材体験シミュレーション ～“グローバル”情報との接し方～
- 講師 国際フォトジャーナリスト 小川 周佑氏（参加生徒人数 24名）



【国際フォトジャーナリスト小川周佑氏によるワークショップ】

【「海外取材」のシミュレーション】

日本人の入国実績が無い「A国」で殺人事件が起きた。生徒たちは6つの班に分かれて、各グループがノンフィクションライターとして「A国」を訪れる。住民から情報を聞き出し、真実を追求し、最終的に事件に関する記事を作成することを目的とする。

【講義内容】

□海外報道と取材の切り口について

- ・ 同じ事件を追っていても、誰に取材するか、情報をどう取捨選択するかによって、それぞれのグループが異なった記事を完成させた。
- ・ 海外での取材も同じで、取材相手が何も語ってくれない場合や、人によって語る真実が異なる場合もある。複数の人に同じ質問をして情報の整合性をとり、記事を作成する際には、伝えたいテーマに応じて切り口を変える必要がある。
- ・ 近年の報道では過激であることが求められ、極端な弱者や極端な悪が出現する傾向にある。そのような報道にどう対峙すべきか、また自分が情報発信する時にどうすべきか考えてほしい。

□異文化コミュニケーションについて

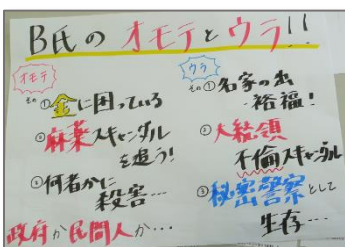
- ・ 異文化コミュニケーションの際には理解しがたいことや嫌なこともある。きれいごとではないということを理解した上で取り組むべき。
- ・ コミュニケーションの上で異文化理解や共感力は応用力としてももちろん大切だが、基本の力としてはやはり語学力が大切である。

□グローバルは目的ではなく手段

- ・ グローバル活動というと、国際機関やNGOや海外企業に所属するだけでなく、国内企業に勤務しながら海外の仕事に携わるなど、多くの選択肢がある。ただなんとなく海外で働きたいという気持ちだけでは活動し続けるのは難しい。まず自分のやりたいことが先にあり、それを現実化するためにはどの国に関わればよいのか、どんな能力が必要なのかを考えるべきである。



情報を入力
↓
情報を取捨選択して記事にまとめる
↓
グループごとに発表



同じ事件でも記事の切り口はグループによって様々だった

～生徒の感想～

同じテーマを追及しているのにグループごとに異なる意見が出て、事実と違う記事もあった。正しい情報を追求することの難しさを痛感した。SGH校として、私たちは自分たちの研究している情報を正しく発信していかなければいけないと思う。また語学力をつけることの重要性を学んだ。異なる文化や価値観を受け入れることをきちんと理解して、対外的に行動していきたい。